

令和7年度 藤棚地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

西区の中でも高齢化率が高い地域で、ひとり暮らしの高齢者人口も多い地域です。山坂や階段が多い地域であり、外出できない高齢者が多くいます。認知症の相談も増えています。身近な場所での居場所づくりや生きがいづくりが課題となっています。地域活動の支え手が減少しているので、新たな協力者が必要となっています。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	☐	「交流・居場所」として、多世代・異文化でも参加できるよう、学校や企業などと連携し、新たなツールを活用した、交流の場づくりを進め、ボランティアの育成、マッチング、地域住民のつながりづくりを支援します。
☐	■	認知症の理解の啓発をさらに進めチームオレンジの活動を活性化します。
☐	■	地域活動交流、生活支援コーディネーターと地域包括支援センター担当職員が連携して、積極的に地域に出向いて事業や出前講座を実施します。
☐	■	地域包括ケアシステムの推進に向けて、さらに地域の状況・課題の把握に努め、医療と介護の連携に努めます。
☐	■	地域包括ケアシステムの推進に向けて「地域ケア会議」を開催します（個別レベルを年3回程度、包括レベルで年1回以上実施）

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

・「交流・居場所」として、多世代・異文化でも参加できるよう、学校や企業などと連携し、畑活動やゲームスポーツ、今昔かるたなど新たなツールを活用した、交流の場づくりを進め、ボランティアの育成、マッチング、地域住民のつながりづくりを支援しました。
 ・認知症については、チームオレンジの活動として、小学校向けや地域住民向けにVRなども利用し、サポーター陽性講座を開催し、地域のイベントで認知症理解クイズを行うなど、正しい理解の啓発を進め、認知症になっても安心して暮らせる街になるよう支援しました。
 ・地域に積極的に出向き、介護保険や健康づくり、終活、成年後見制度などの出前講座を実施し、自分らしく心豊かに暮らせるよう支援していきました。
 ・地域包括ケアシステムの推進に向け、地域や関係団体が連携し、医療介護連携が進むよう、顔の見える関係づくりに努めました。

☐ 区からのコメント

（全事業共通）
 ○今年度は、にこまちプラン地区別計画の策定において、地域ケアプラザ・区社会福祉協議会・区役所の3者で連携しながら、策定することができました。ありがとうございます。次年度は、計画の推進に向けて、地区支援に取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。
 ○日頃から地域活動や会合への参加を通して、地域の担い手と顔が見える関係ができています。民生委員などからの相談につながっており、地域の情報や相談をキャッチすることができています。
 ○日頃からコーディネーターと地域包括支援センターが連携・協働し、柔軟な発想を生かして、地域における新たなつながりづくりや担い手づくりにご尽力いただきました。特に、小学校や専門学校とのつながりをきっかけとし、新たな場づくりや活動に繋げていく発想力や、コーディネート力が光ります。また、柔軟な発想や工夫で、ゲームスポーツや今昔かるたなど、多様な人が楽しく気軽に参加でき、交流できる機会の場づくりを広げて頂きました。
 ○各エリアの様々な居場所等を支援されていることが活発な地域活動の一助となっています。今後も引き続き、多職種によるアセスメントを通して、多様な主体による資源の活用も視野に入れながら、地域での支え合いの取組がより一層推進されることを期待しています。

（地域包括支援センター事業）
 ○認知症、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント等の分野において、地区診断に基づくエリアニーズに即した講座や相談会を実施するとともに、ケアマネジャーをはじめとする関係機関への丁寧な支援を行っていただきました。地域ケア会議を効果的に活用し、地域資源につながりやすい仕組みづくりを継続的に検討いただくとともに、個別支援においても職種間で連携し、必要な支援や居場所につなげていただいています。チームオレンジ活動では、学校や地域を対象とした啓発にも取り組まれました。今後も、地域住民や関係機関との連携・協働による地域づくりの一層の推進を期待します。